

ロータリー特別月間 1月：職業奉仕 2月：平和構築と紛争予防

通常例会 1月25日例会

【第一分区インターナショナルミーティング】



2026年1月25日(日)、日立テラスホテルにおいて、国際ロータリー第2820地区第一分区インターナショナルミーティング(IM)が盛大に開催されました。

本IMは、第一分区7クラブの会員が一堂に会し、ロータリーの理念を改めて確認するとともに、クラブ間の交流と親睦を深める貴重な機会となりました。

当日は「ロータリーの魅力と我がクラブの5年後のビジョン」をテーマに、各クラブの特色ある取り組みや地域に根ざした奉仕活動が紹介され、参加者それぞれが自クラブの活動を振り返りながら、今後のロータリー活動の在り方について考える有意義な時間となりました。また、懇親会では和やかな雰囲気の中、活発な意見交換が行われ、クラブや世代を超えたつながりが一層深まりました。

とりわけ、創作落語「米山梅吉物語」は、ロータリーの原点と精神を分かりやすく、そして心に残る形で伝えていただき、会場は大きな感動と拍手に包まれました。

《奉仕の理想・ソングリーダー・滝徳宗会員》



明るく力強いリードで会場の空気を一つにまとめ、IMの幕開けにふさわしい一体感を生み出してくれました。

《第一分区小森ガバナー補佐》



我がクラブの小森ガバナー補佐には、第1部から第2部、そして新春懇親会に至るまで、常に周囲へ目を配りながら的確なご配慮を賜り、IM全体を円滑に導いてくださいました。一人一人に温かく声をかけながら場を整えてくださり、IM運営に携わる我々にとって大きな支えとなりました。

月 日	プロ グ ラ ム	担 当
2月 4日	クラブフォーラム(地区補助金)	会長・幹事
2月 11日	休会	
2月 18日	出前授業	職業奉仕委員会・青少年奉仕委員会
2月 25日	クラブフォーラム	会長・幹事

事務所：〒318-0033 高萩市本町2-65
常陽銀行高萩支店内

TEL/FAX：0293-24-0505

■URL：<https://www.takahagiroc.jp>

■E-Mail：takahagi-rotaryclub@h7.dion.ne.jp

会長：平野 浩司
幹事：秋山 順弘

例会：第1・2・3 水曜日 12:30～13:30

公共イメージ向上委員会：田所 和雄 作山太一 石君平
滝徳宗 大河原浩 今川隆 滝義昭
石川彰信

《第1部シンポジウム発表・鈴木淑登会員》



鈴木淑登会員からは、ロータリーの魅力を改めて見つめ直すとともに、高萩ロータリークラブが目指す「5年後のビジョン」

についての発表がありました。その中核として示されたのが、スポーツ事業を通じた青少年育成と地域活性化という明確な方向性です。まず活動報告として紹介されたのが、北茨城ロータリークラブと共に実施したロータリー少年柔道大会です。競技力の向上だけでなく、礼節や仲間を思いやる心を育む場として、長年継続してきた本事業の意義が改めて共有されました。地域に根ざした奉仕活動として、多くの関係者に支えられていることも強調されました。

続いて報告されたのは、プロ野球選手を招いて開催した「高萩 RC ベースボールフェスタ（少年野球教室）」です。トップレベルの選手と直接触れ合う貴重な体験は、参加した子どもたちにとって大きな夢と刺激となり、スポーツを通じた学びと感動を地域に届ける事業となりました。

これらの活動を単発で終わらせるのではなく、継続し発展させていくことで、「子どもたちが集まり、家族が集い、人が動くクラブ」を5年後の姿として描いています。

また、鈴木会員は地域活性化をテーマとしたご自身の新たな事業構想についてご報告いただきました。北茨城の地に人の流れを生み出し、地域に賑わいを取り戻したいという強い思いのもと、「牡蠣小屋」を軸とした事業計画が紹介され、参加者一同、大きな関心をもって耳を傾けました。

単なる飲食事業にとどまらず、「人が集まる場所をつくること」「地域の魅力を再発見し、外へ発信すること」という視点は、まさにロータリーが大切にする“地域社会への奉仕”そのものだと感じさせられる内容でした。挑戦には困難も伴いますが、困難を恐れず一步を踏み出す姿勢は、私たち会員にとっても大きな刺激となりました。

鈴木会員の今後の取り組みが、北茨城、そして私たちの地域に新たな活力をもたらしてくれることを期待せずにいられません。



ロータリーの魅力とは、人と人をつなぎ、地域の未来を育てる力にある——。その想いが強く伝わる発

表は、私たち会員一人ひとりがクラブの将来を考える大きなきっかけとなりました。

《第1部シンポジウム招請・国際ロータリー第一地域ロータリー会員増強コーディネーター補佐 / 大高司郎会員》



第一分区7クラブそれぞれの発表内容を丁寧に受け止め、各クラブの特色や強みを捉えた講

評は、7クラブそれぞれの違いを尊重しつつ、気づきを与え、分区としての一体感を感じさせるものでした。クラブとしても次への活力につながる時間となりました。

《司会・石川彰信会員》



本IMの司会進行は、石川彰信会員が務めました。今回が初めての大舞台での司会役となりましたが、

そうとは感じさせない落ち着いた進行ぶりで、会全体をしっかりとまとめ上げました。式典から各発表、懇親会に至るまで、的確なアナウンスとタイミングの良い声掛けにより、会は終始スムーズに進行。臆することなく堂々と役割を果たす姿は、会員一同に安心感を与えるとともに、高萩クラブの底力を感じさせるものとなりました。

《アトラクション・「米山梅吉物語」》

参遊亭遊介氏による創作落語「米山梅吉物語」は、米山梅吉氏の生い立ちから、現在の米山奨学金制度が生まれるまでの歩みを、時系列に沿って分かりやすく描いた内容でした。



難しくなりがちな歴史や理念を、落語ならではの語り口で、時にユーモアを交えながら軽快に表現し、会場は終始引き込まれた雰囲気に包まれました。

笑いの中にしっかりととしたメッセージが

込められており、米山事業の原点や意義が自然と心に届く構成は、まさに「学びと楽しさ」が両立したひとときとなりました。初めて米山梅吉氏の歩みを知る会員にも、改めて理解を深める会員にも、大変印象深いアトラクションとなりました。懇親会にも参加して頂きました。聞くところによると、最近、創作落語「ポールハリス」を完成されたとのこと。また別の機会にお願いしたいと思った次第でした。



「米山梅吉物語」の創作落語が終演した後、北茨城ロータリークラブの米山奨学生・許さんより感想をお話しいただきました。米山梅吉氏の生き

方や理念が、落語という親しみやすい形で表現されたことに深く心を動かされた様子で、自身の立場と重ね合わせながら語られました。奨学生として支えられていることへの感謝の気持ち、そしてロータリーの精神が今も生き続いていることへの実感が率直な言葉で伝えられ、聴く側の多くの会員にとっても、米山事業の意義を改めて考える貴重な時間となりました。

《クラブの皆さん、お疲れ様でした》

IM 前日は「高萩 RC ベースボールフェスタ」を開催しており、クラブとしては、まさに慌ただしい日程の中での IM 開催となりました。

しかし、この二つの事業はいずれも偶然ではなく、約半年以上前から実行委員会を中心に計画的に準備を進めてきた取り組みの集大成でもありました。ベースボールフェスタの準備と並行して、IM 当

日に向けたパンフレットの袋詰め、プレゼンテーション資料の最終調整を行い、当日は受付、駐車場整理、来賓・参加者の接待など、会員それぞれが役割を担い、互いに声を掛け合いながら運営にあたりました。一人ひとりの力は小さくとも、全員が同じ方向を向いて動いたことで、IM を無事、そして成功裡に導くことができたと感じています。改めて、高萩ロータリークラブは「まとまりのあるクラブ」であり、困難な状況でも力を発揮できる組織であることを実感した IM となりました。この経験を今後の奉仕活動、そして次なる挑戦へつなげていきたいと思います。

